

小学校国語教科書における古典教材

—学習指導要領改訂を受けて—

加藤直志

【抄録】2008年の学習指導要領では、小学校においても伝統的な言語文化についての学習を重視するという方針が打ち出された。これを受けて、小学校の国語教科書でも、古典に関する教材がこれまで以上に配置されることになった。本稿は、それらを概観することで、各教科書の特徴を明らかにすることを試みたものである。また同時に、中学校・高等学校の国語科教員が、小学校でどのような古典教育が行われるのかを知る一助とすることも目論んだ。

【キーワード】 学習指導要領改訂 小学校国語教科書 古典教材 伝統的な言語文化

1. はじめに

今般の学習指導要領改訂において、「古典の指導については、我が国の言語文化を享受し継承・発展させるため、生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視する。」(注1)という方針が示され、小学校の国語教科書においても、低学年段階から古典分野を取り上げるようになった。

伝統的な言語文化は、創造と継承を繰り返しながら形成されてきた。それらを小学校から取り上げて親しむようにし、我が国の言語文化を継承し、新たな創造へとつないでいくことができるよう内容を構成している。例えば、低学年では昔話や神話・伝承など、中学年では易しい文語調の短歌や俳句、慣用句や故事成語、高学年では古文・漢文などを取り上げている。(注2)

本稿では、指導要領改訂を踏まえて行われた教科書の改訂において、とりわけ「伝統的な言語文化」に関連が

深いと思われる単元について、各教科書会社がどのような教材を選定しているのかを概観し、その特徴等を整理してみた。

2. 各教科書における古典教材

【凡例】

- ・古典教材といった場合、江戸時代以前に書かれた古文及び漢文を指すのが一般的であろうが、本稿では、近代のものであっても文語で書かれている作品や、伝統文化への理解を意識した教材と思われるものも広く古典教材として捉えることにした。(注3)
- ・作品や昔話のタイトルにはカギ括弧を付けてある。具体的な作品名・題名を付けにくい教材には、カギ括弧を付けていない。
- ・古典教材の名称がゴシック体になっているものは、口語訳だけではなく、文語文も掲載しているということの意味している。

【光村図書『国語』】

学年	教材	内容
1	「おむすびころりん」	昔話を掲載。
	むかしばなしがいっぱい	絵の中から、知っている昔話を見つけ、友達と話しましょうという課題を載せる。
2	「いなばの白うさぎ」	昔話を先生に読んでもらい、それを聞く、という設定になっているが、教科書の末尾に物語の文章も掲載している。
	きせつのことば	十二支や春の七草などを紹介。また、教科書の末尾に「十二支のはじまり」という文章を載せる。
3	声に出して楽しもう 良寛・芭蕉・蕪村・一茶	和歌、俳句の音読、暗唱を推奨する記述がある。
	江橋崇「かるた」	かるたについての説明文のなかで、百人一首や貝おおいに言及。
	百人一首を楽しもう 紀貫之・伊勢大輔・小野小町など	音読・下の句当てクイズ・かるた取りなどで楽しむ方法を紹介。

4	季節の言葉 蕪村・紀貫之・正岡子規など	春夏秋冬のそれぞれに応じて、俳句、短歌などを紹介。
	声に出して楽しもう 紀貫之・正岡子規など	和歌、俳句などを紹介しているが、それについての説明文や課題は載っていない。
	知ると楽しい故事成語	教科書の末尾で、蛇足・五十歩百歩について、その意味と言葉の由来を紹介。
5	季節の言葉 式子内親王、芭蕉、菅原道真など	春夏秋冬のそれぞれに応じて、俳句、短歌などを紹介。
	声に出して楽しもう 今も昔も 「竹取物語」「枕草子」「平家物語」	3つの作品の冒頭部分を簡潔な解説文、現代語訳とともに紹介。音読だけでない、内容理解につながる解説を掲載。
	「論語」	書き下し文のみを簡潔な解説文とともに紹介。
	「徒然草 高名の木登り」	「徒然草」についての簡潔な説明と、「声に出して読もう」「書かれていることについて、あなたは思うだろうか」といった課題を載せている。
6	季節の言葉 春暁・定家・芭蕉など	春夏秋冬のそれぞれに応じて、漢詩、俳句、短歌などを紹介。
	「伝えられてきたもの」	「万葉集」「源氏物語」など、日本古典文学史の概説。また、能・人形浄瑠璃・歌舞伎の紹介文も掲載。
	狂言・柿山伏	山本東次郎「柿山伏について」という説明文と併置。
	高知勲「『鳥獣戯画』を読む」	文末ではほかの絵巻物の紹介も行っている
	声に出して楽しもう 福澤諭吉「天地の文」	文語調の文章である。
	「枕草子 うつくしきもの」	渡辺実「言葉は動く」という説明文、言葉の変化について考えさせる課題と併置。
	古人のおくりもの 狂言・落語	狂言・落語の紹介。

学習指導要領に則し、低学年で神話・昔話、中学年で和歌・俳句、高学年で古文・漢文を配置するオーソドックスな内容である。3年生で百人一首を遊びに取り入れながら学べるようにしている点、工夫が見られる。また、6年生では古文に関連した説明文を併置すること

で、単に古文に親しむという段階から、内容に踏み込んだ指導ができるよう工夫されている。明治期の文章を取り上げ、古典と現代日本語の橋渡しを試みるなど、音読などから始めて内容面に踏み込んだ学習もできるよう、工夫されている点が特徴的である。

【東京書籍『新しい国語』】

学年	教材	内容
1	日本のことのは むかしばなしをたのしもう	「桃太郎」「浦島太郎」などの挿絵を乗せる。文章は載せず、先生が読んで聞かせるという設定。
	むかしばなしをよんでもらおう	教科書末尾に「花さかじい」の話を掲載。
2	言いつたえられているお話しよう	「でいたらぼっち」「いなばの白うさぎ」「やまたのおろち」「海さち山さち」の内容を簡潔に紹介。
	むかし話を楽しんで読もう 「かさこじぞう」	かさこじ蔵の話を掲載した後、「舌切雀」「雪女」など、ほかの昔話も紹介。
	日本の言の葉 おばあちゃんに聞いたよ	おばあちゃんから、十二支、春の七草、いろはうたなどについて教えて貰うという設定の教材。
3	日本の言の葉 慣用句を使ってみよう	慣用句の意味を調べ、使ってみようという課題が載る。
	読書の部屋 「じゅげむ」	落語の寿限無を読み物にしたもの。
	日本の言の葉 俳句に親しもう 蕪村・一茶・芭蕉など	現代語訳とともに、俳句が十七音の芸術であることや季語などについての説明を載せる。

4	日本の言の葉 「ことわざブック」を作ろう	ことわざの意味を調べ、そのことわざを用いた例文をカードに記入するという課題が載る
	日本の言の葉 故事成語について知ろう	「五十歩百歩」について、その成り立ちと意味を四コマ漫画も用いて説明している。
	くらしの中の世界について調べよう 「くらしの中の和と洋」	古典教材とは言えないが、日本の伝統文化と外国文化との差異に気付かせようとする説明文である。
	日本の言の葉 「百人一首」を声に出して読んでみよう 能因法師・持統天皇・山部赤人など	和歌が三十一音からなることを説明。百人一首で遊んでみることを推奨。
5	日本の言の葉 古文を声に出して読んでみよう 「竹取物語」「徒然草」「平家物語」	簡潔な解説文を併置し、有名作品の冒頭を現代語訳とともに紹介。音読を推奨する記述がある。
	日本の言の葉 古文に親しもう 「枕草子 春はあけぼの・九月つごもり・ふるものは雪」	簡潔な解説文を併置し、現代語訳とともに紹介。章末に「その季節にすばらしいと感じる身近なものごとを取り上げて、文章を書いてみましょう。」という課題を載せる。
6	日本の文字に関心を持とう	万葉がなの紹介、ひらがな、かたかなの成り立ちなど。
	日本の言の葉 漢文を読んでみよう 「論語」「春暁」「十七条憲法」など	漢文についての簡潔な解説、書き下し文に白文を添える形で紹介。
	言葉は変わる 「竹取物語」	「竹取物語」冒頭を例にあげ、言葉が時代とともに変化するという点について述べる文章構成になっている。物語として読むというよりも日本語史の視点に重きを置いた解説文である。
	日本の言の葉 伝統芸能に親しもう 能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎・落語	小学生が参加している伝統芸能「曳山子供歌舞伎」(石川県小松市)、「高志狂言」(佐賀県神埼市)、「三河万歳」(愛知県西尾市)、「子ども文楽」(大阪府大阪市)なども紹介。

「日本の言の葉」という単元を各学年に設け、「伝統的な言語文化」(学習指導要領)に関わる教材を各学年に配置している。外国文化と比較することで、日本特有の文化に気付かせようとする、4年生の「くらしの中の和と洋」が他社の教科書にはない教材配置である。6年生では、よく教科書に取り上げられる漢字の分類などと並

んで、万葉がなや、ひらがな、かたかなの成り立ちについて述べているのが特徴的である。また、各教科書が古典芸能を紹介しているが、小学生が参加する地域芸能を紹介することで、学習者と伝統芸能の距離を近づけようという工夫は独自のものである。

【三省堂「小学生の国語」】

学年	教材	内容
1	むかしばなしをたのしもう 「いなばの白ウサギ」	因幡の白ウサギの話を掲載した後、「やまたのおろち」など、ほかの昔話も紹介。
2	「かさこじぞう」	かさこ地蔵の話を掲載した後、「さんまいのおふだ」など、ほかの昔話も紹介。
	【学びを広げる】古典の世界 昔話を知ろう	「ももたろう」「さるかに合戦」などを紹介。
	【学びを広げる】古典の世界 遊びの「昔」	「貝合わせ」「竹馬」などの昔の遊びを紹介。
3	何をしているのかな	「鳥獣人物戯画絵巻」の一場面を写真で掲載。絵の中で何がおきているのか、このあとの物語はどうなるのかななどを考えさせる課題が与えられている。
	声に出して読もう一俳句 芭蕉・蕪村・一茶・子規	俳句が十七音からなることを述べる。現代語訳はなし。
	中心をはっきりさせて話そう 昔のことを聞いてきました	昔といっても、前近代が対象ではない。身近な人に昔の話を聞き、クラスで報告するという単元である。
	【学びを広げる】読書の時間 笑話「星取り」	平易な古文に現代語訳を付す。

3	【学びを広げる】読書の時間 「いろは歌」	すべてひらがなで書いたもの、漢字を当てたもの、現代語訳の3種類を載せる。
	【学びを広げる】読書の時間 「竹取物語」	冒頭部及び、かぐや姫が月に帰る場面を現代語訳付きで掲載。
	【学びを広げる】古典の世界 絵巻物を知ろう	「鳥獣人物戯画」などの写真を簡潔な解説とともに掲載。
	【学びを広げる】古典の世界 食事の「昔」	縄文時代から江戸時代までの食事の写真を掲載。
4	落語 じゅげむ	落語についての概説の後、「寿限無」の一部を掲載。
	声に出して読もう—短歌 人麻呂・友則・伊勢大輔・源実朝など	短歌が三十一音からなることを述べた後、上代から現代に至る和歌(短歌)を紹介。現代語訳は付さない。
	想ぞうをふくらませよう 故事成語の物語	「漁夫の利」の物語について、現代語で紹介。そのほかの故事成語についても調べてみる課題を載せる。
	【学びを広げる】言葉の図かん 色、いろいろ	「緑」「紫」を表すのに、「松葉色」「桔梗色」など、様々な語があることを写真入りで紹介。
	【学びを広げる】読書の時間 「小倉百人一首」 持統天皇・山部赤人・阿部仲磨など	百人一首の一部を現代語訳とともに掲載。音読を推奨する記述あり。
	【学びを広げる】読書の時間 「浦島太郎」	「浦島太郎」を現代語訳とともに掲載。音読を推奨する記述あり。
	【学びを広げる】古典の世界 落語を知ろう	「初天神」「長屋の花見」「じゅげむ」の概略を簡潔に紹介。
	【学びを広げる】古典の世界 着物の「昔」	縄文時代から江戸時代までの衣服の写真を掲載。
5	「狂言 しびり」	狂言についての概説の後、「しびり」を掲載。一部現代語訳を付す。
	司馬遼太郎「洪庵のたいまつ」	緒方洪庵の伝記。文末には適塾の写真などを掲載し、古典作品ではないものの、前近代の日本について学ぶことができる教材である。
	表現のよいところを見つけ合おう 句会を楽しむ	前近代の俳句作品は載せていないが、季語、俳号などについて説明し、児童に俳句の製作をすすめる教材である。
	【学びを広げる】言葉の図鑑 写真歳時記	写真入りの「歳時記」を紹介。
	【学びを広げる】読書の時間 漢詩 「絶句」「春暁」	白文・書き下し文・現代語訳を掲載。音読を推奨。
	【学びを広げる】読書の時間 「平家物語」	「平家物語」冒頭を現代語訳、解説文とともに掲載。音読を推奨。
	【学びを広げる】古典の世界 能・狂言を知ろう	写真入りで紹介。「道成寺」「附子」などの作品名を掲載。
	【学びを広げる】古典の世界 「住まい」の「昔」	縄文時代から江戸時代までの住居の模型写真を掲載。
6	場面の様子と自分の思いとを書き分けよう 自由な発想で—随筆— 「徒然草」「枕草子」	現代の随筆を掲載した後、随筆は昔からあったものであるという文脈で、「徒然草」「枕草子」の冒頭部分を現代語訳とともに掲載。
	資料とあわせて、読み深めよう 渡辺あきこ「「なべ」の国、日本」	日本の「なべ料理」の歴史についての説明文。文中で、『誹風柳多留』『安愚楽鍋』を引用。
	声に出して読もう—漢文 「論語」	論語の一節を、書き下し文及び現代語訳で紹介。
	表現のくふうを楽しもう 「短歌を作る」 良寛・子規など	短歌の特徴とともに、作品例として、俵万智、正岡子規、良寛、与謝野晶子らの作を紹介。
	日本語の歴史	漢字かな交じり文、万葉がな、ひらがな・かたかななどについての説明を載せる。

6	【学びを広げる】言葉の図鑑 こよみってなあに?	月の異名、十二支などを紹介。
	【学びを広げる】言葉の図鑑 古典を絵本で	あまんきみこ「青葉の笛」などを紹介。
	【学びを広げる】言葉の海へ 四季の言葉	「歳時記」を掲載。
	【学びを広げる】読書の時間 「枕草子 うつくしきもの」「徒然草 二百四十三段」「奥の細道 冒頭」	古文と現代語訳を載せる。音読を推奨し、内容にも思いをはせるように書かれている。
	【学びを広げる】古典の世界 歌舞伎・文楽を知ろう	写真入りで紹介。具体的な作品は挙げていない。
	【学びを広げる】古典の世界 学校の「昔」	足利学校、適塾などの写真を紹介。

三省堂の教科書は、本編に加えて、本編の補足的教材や他教科との連携を狙った教材を取録する『学びを広げる』という別冊からなることが特徴的である。『学びを広げる』において、より多くの古典作品を掲載している。各学年で「〇〇の昔」という、昔の生活を知るための写真を掲載していることなど、言語の教育の枠を越

え、広く日本文化史を学べるようにしている点が国語教科書としては珍しい。また、6年生の「日本の随筆」「なべ」の国、日本」では、前近代の文章だけを紹介するのではなく、現代と近代とをつなぐ内容になっている。「なべ」の国、日本」は、明治、江戸の作品に触れている点で、文学史の連続性を知ることができる。

【学校図書「みんなと学ぶ 小学校 国語」】

学年	教材	内容
1	むかしばなしをよもう きさかりょう「うみの水はなぜしょっぱい」	海の水に塩分が含まれていることについての昔話を掲載。
2	「むかしの物語をたのしもう」 きさかりょう「ヤマタノオロチ」	神話のヤマタノオロチを童話にした文章を掲載。
	お話を作ろう 「つづき落語ばなしを作ろう」	「けちなけちべえさん」の落語の最初の場面を紹介し、その続きを考えるという課題が載る。
3	「言葉のリズムを感じてみよう」 松尾芭蕉・与謝蕪村・小林一茶・田捨女	簡潔な解説文とともに、俳句四句を紹介。俳句を音読する、読んで浮かび上がる風景について考えてみようという課題が載る。
	調べたことをほうこくしよう 「今と昔をくらべよう」	昔といっても前近代ではなく、おじいさんから聞いて分かったことを報告するという内容になっている。
4	「言葉から風景を想像しよう」 山部赤人・小式部内侍・能因法師・後徳大寺左大臣	簡潔な解説文とともに、百人一首の中の四首を紹介。短歌を読み、風景を想像するという課題を掲載。
5	内容をとらえながら筆者の主張を読み取ろう 町田誠「和紙の心」	説明文教材ではあるが、和紙と洋紙との比較から、日本人の心のありようを読み取らせようという内容の文章である。
	言葉の文化に親しもう 小野篁	「宇治拾遺物語」を引き、小野篁が十二の「子」を読んだ逸話を紹介。その後、「古文」についての簡潔な解説文を掲載している。
	随筆を書こう わたし風「枕草子」 短歌・俳句を作ろう 良寛・小林一茶	「枕草子」「春はあけぼの」を現代語訳とともに紹介した後、「わたし風『枕草子』」を書いてみようという課題に繋げる。良寛・小林一茶の作品を例に、短歌・俳句について紹介しながら、自分でも創作しようという課題に繋げる。
6	言葉のリズムやひびきを楽しもう 文語詩を味わおう 島崎藤村、柳田国男 漢詩を味わおう 高啓	柳田国男の『海上の道』についての解説文。曲を聞いたり、歌ったりしようという課題が載る。簡潔な解説文とともに、高啓の五言絶句を掲載。音読や暗唱を推奨する記述あり。

現代語で書かれた昔話も含めて古典教材の分量は少ない。古典を読ませる、というよりも、古典を紹介した後、それを参考に創作をさせる、さらには子ども達相互で発表するという課題に繋げることが多い。聞くこと・

話すこと、書くことの領域を重視しており、古典に触れるのも、それらの指導の一環という編集方針がうかがえる。古典芸能の紹介がない。

【教育出版『ひろがる言葉 小学国語』】

学年	教材	内容
1	むかしのおはなしをたのしむ みずたにしょうぞう「天にのほったお けやさん」	岡山県の民話。音読を推奨している。
2	むかしのお話を読む ふくながたけひこ「いなばのしろうさ ぎ」	稲葉の白兔を掲載。出典が『古事記』であることも紹介している。 身近な昔話を探して発表するという課題を提示している。
	【ふろく 言葉のとびら】 わらべうた	かごめかごめ、とうりゃんせなどを紹介。
	むかしのお話を楽しむ いわさききょうこ「かさこじぞう」	笠子地蔵を掲載。「むかしむかし」で始まる昔話を探して友達に紹介するという課題を提示している。
3	日本語のひびきにふれる 「俳句に親しむ」 小林一茶、与謝蕪村、松尾芭蕉	簡潔な解説文とともに、江戸時代から現代に至る俳句数句を紹介し、児童に俳句を作らせる課題に繋げている。
	【ふろく 言葉のとびら】 「きせつと言葉」	八節、年中行事に関する説明。
	日本の文化に親しむ ことわざ・慣用句	善は急げ、急がば回れなどの意味を紹介している。
	【ふろく 言葉のとびら】 「俳句を読もう」 小林一茶、松尾芭蕉、高浜虚子など	江戸時代から現代に至る俳句数句を季節別に紹介し、音読を勧めている。
4	日本語のひびきにふれる 「短歌の世界」 柿本人麻呂、藤原定家、与謝野晶子など	短歌というものについての解説文のなかに、具体例として前近代の和歌も引用している。その後、短歌を作ってみようという課題を載せる。
	【付録 言葉のとびら】 「月の名前」 柿本人麻呂	月の異名などについての説明文。人麻呂の歌を引用している。
	【付録 言葉のとびら】 「いろはうた」	いろはうたを現代語訳付きで紹介し、自分でも「いろはうた」のような文章を作ってみようという課題を載せる。
	日本の文化に親しむ 「故事成語」	「五十歩百歩」「漁夫の利」といった故事成語の意味をその逸話とともに紹介し、故事成語を実際に用いることを奨励する記述が載っている。
	本の世界を広げて読む 三遊亭円窓「そろそろ－落語」	落語についての簡潔な説明の後、「そろそろ」を掲載。章末の課題として、暗唱や実演を推奨。また、会話中心で進んでいく話を創作するような課題も掲載している。
	心の通い合いを読む 木下順二「夕鶴」	鶴の恩返しのお話を掲載。古典教材というよりも読み物として掲載している。
	【付録 言葉のとびら】 「百人一首」を読もう 柿本人麻呂、山部赤人、安部仲麻呂など	百人一首に関する簡潔な解説とともに、数首の和歌を紹介。
	【付録 言葉のとびら】 三遊亭円窓「寿限無（落語）」	落語「寿限無」を掲載。
5	日本語のひびきを味わう 漢文に親しむ 「春暁」「静夜思」「論語」「大学」	書き下し文と現代語訳を載せている。「春暁」のみは白文も載せ、書き下し文との差異を解説している。音読を推奨している。

	【付録 言葉のとびら】 漢文を読もう 「春夜」「江南の春」「山亭の夏日」「論語」	書き下し文と現代語訳を載せている。音読を推奨している。
5	日本の文化を考える 「物語」を楽しむ 「竹取物語」「平家物語」など	「竹取物語」「平家物語」の冒頭を紹介（「竹取」は現代語訳を付す）。解説のなかで、「源氏物語」や能、狂言、歌舞伎、人形浄瑠璃を紹介。また、出版文化にからめて、「浦島太郎」「物ぐさ太郎」「鉢かづき」も紹介。
	【付録 言葉のとびら】 「古典」の言葉にふれよう 「更級日記」「源氏物語」「伊曾保物語」	「更級日記」の「源氏物語」に関わる箇所を引用しながら、「源氏物語」の冒頭を現代語訳とともに掲載している。また、「伊曾保物語 ほととありのこと」も現代語訳とともに紹介している。
	【付録 言葉のとびら】 狂言・附子	簡潔な解説の後、附子を掲載。現代語訳は付けていない。
	日本語のひびきを味わう 「枕草子」	簡潔な解説に現代語訳を付す。「枕草子 春はあけぼの」の後に、「随筆を書こう」という単元を配している。
	【付録 言葉のとびら】 伝えられてきた作品 「徒然草」「おくのほそ道」、アイヌ神謡集、おもしろそうし	「徒然草 序段」「おくのほそ道 冒頭」などを取り上げ、簡潔な解説に現代語訳を付す。アイヌ神謡集、おもしろそうしを掲載している点が特筆に値する。
	【付録 言葉のとびら】 山口仲美「さるは『ココ』と鳴いていた」	猿の鳴き声の記述が、時代によって変化していることについて述べた説明文である。言語の時代的な変遷への意識を高める教材といえる。
6	日本の文化を考える 言葉は時代とともに 夏目漱石「坊っちゃん」、芥川龍之介「杜子春」、正岡子規、山部赤人、柿本人麻呂	明治、大正の作品の一部を抜粋して原文で紹介。また、「枕草子」以前の作品として、「万葉集」の歌を紹介。現代語訳は付さず、意味よりも語感の違いに主眼を置いた解説を付している。
	生き方を考えながら読む 国松俊秀「伊能忠敬」	伊能忠敬の伝記である。江戸時代の暦法、風俗などについての説明も含まれる。
	日本語の文字	漢字の種類、万葉仮名、平仮名、片仮名、ローマ字などについての説明。
	【付録 言葉のとびら】 日本の名作 夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、島崎藤村	簡潔な解説とともに、明治・大正時代の名作（「我が輩は猫である」「山椒大夫」「蜘蛛の糸」「小諧なる古城のほとり」）の一部を紹介。
	【付録 言葉のとびら】 短歌や俳句を楽しもう 志貴皇子、松尾芭蕉、柿本人麻呂、川柳など	「万葉集」から現代に至る、我が国の韻文の歴史を紹介し、自分でも短歌や俳句を作ってみよう、という内容が続いている。

低学年で昔話、中学年で俳句・短歌、高学年で古文・漢文というのは一般的な配置だが、5年生で「故事成語」を実際に使ってみるなど、実生活での応用にもつなげようという意図が感じられる。また、6年生の「さるは『ココ』と鳴いていた」は古典教材ではないものの、言語の変遷について述べた文章であり、古典の学習とも関連づけた読み方ができる教材である。この教科書の特色としては、江戸時代の出版文化や川柳、アイヌ、おもしろそうしなど、従来の国語教育では重視されてきたとはいえない作品群も教材化していることが挙げられる。

3. まとめ

各教科書とも、学習指導要領に従い、低学年で昔話、中学年で俳句・短歌、高学年で古文・漢文を配置しているが、比較してみると、それぞれの教科書の特徴が浮かび上がってきた。

収録されている教材としては、「枕草子」「徒然草」などが多く、定番教材になりつつあるといえるが、古文に慣れさせるというだけではなく、時代ごとの変遷に気づかせたり、外国との比較という視点を取り入れたりしている教科書があったのが興味深いところであった。中学校・高等学校の教員の立場で発言すると、学年が上がるにつれ、文法事項の習得や現代語訳にばかり気をとられてしまい、「なぜ古典を学ぶのか」といったことにまで

考をめぐらす余裕がなかなかないのが現状である。小学校の入門段階で、古典に親しませながら、学ぶ意義についても考えさせておくことができるとその後の学習への動機付けになるのではないかと感じた。

小学校における「伝統的な言語文化」に関わる教材はいまだ発展途上であり、各教科書会社がお互いのよいところを取り入れ合いながら、これから定番教材というものが確立されていくのではないだろうか。

注

- (1) 「小学校学習指導要領解説 国語編 平成20年8月」東洋館出版社、2009年、3頁。
- (2) 注(1)前掲書、7頁。
- (3) 今般の指導要領改訂について解説した渡辺春美は、「『古典』の範囲が、『伝統的な言語文化』では古代から現代に及ぶ、文化的な言語、言語生活、言語芸術、芸能を含むものとされ、広範囲にわたることになった。」と改訂の要点を指摘する。(「パネルディスカッション 秋期学会 伝統的な言語文化の学習指導を考える—国文学・漢文学・日本語学研究者の立場から—」の「司会者のことば」、『国語科教育』第七十一集、2012年3月。)

【謝辞】

本稿を執筆するにあたり、小学校国語教科書の見本を各出版社からお送りいただきました。記して感謝申し上げます。